安全データシート（SDS）

作成日：2025 年 09 月 17 日

1．製品及び会社情報

製品

製品名	ロードプラスターCOLOR（ベンガラ色）

会社情報

会社名	シンレキ工業株式会社
住所	〒144-0052　東京都大田区蒲田 5 丁目 44 番 25 号
緊急連絡先	中央研究所
電話番号	044-366-1617
FAX 番号	044-366-1618

推奨用及び使用上の制限

・舗装の維持、修繕のためのパッチング材として使用。（業務用）

2．危険有害性の要約

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 - 単回暴露	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 - 反復暴露	分類できない
誤えん有害性	区分に該当しない

※記載が無いものは分類対象外又は分類できない。

GHS 分類

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　警告

危険有害性情報

・皮膚刺激

・強い眼刺激性

注意書き

〔予防策〕

・使用前に取扱い説明書を入手すること。

・すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。

・取扱い後はよく手を洗うこと。

・指定された個人用保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護衣）を着用すること。

〔対応〕

・取扱い後はよく手を洗うこと。

・汚染された衣類を脱ぎ、再利用する場合には洗濯すること。

・皮膚に付着した場合：皮膚を多量の水と石鹸で洗うこと。

・眼に入った場合　　：水数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

・皮膚または眼刺激が生じた場合は、医師の診断/手当を受けること。

〔保管〕

・水のかかわらない場所に保管すること。

〔廃棄〕

・国/都道府県/市町村の法令に従って廃棄すること。

３．組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別	・混合物	
化学名又は一般名	・全天候型常温混合物	
化学式	・特定できない	
成分及び含有量	・① 石油樹脂	0.5～1.5%
	・② 石油系炭化水素（鉱油）	1.5～2.5%
	・③ 植物脂肪酸	2.5～3.5%
	・④ アルカリ性添加剤	2.0～3.0%
	・⑤ セルロース繊維	1%未満
	・⑥ ベンガラ色顔料（赤色酸化鉄）	1.5～3.5%
	・⑦ 骨材	88%以上
CAS 番号	・① 64742-16-1　② 非公開　③ 非公開　④ 非公開	
	⑤ 非公開　⑥ 1309-37-1　⑦ 天産物	
官報公示整理番号（化審法・安衛法）	・① (6)-1071　② 非公開　③ 既存　④ 既存	
	⑤ 既存　⑥ 1-357	

4．応急措置

吸入した場合

・新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

・付着した身体部位を水で洗浄する。
また、汚染された衣類を直ちに脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹸水で洗う。
皮膚の刺激が持続する場合は、医師の診断/手当てを受ける。

眼に入った場合

・水で数分間、注意深く洗うこと。
・次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
・その後も洗浄を続けること。
・眼の刺激が持続する場合は、医師の診断/手当てを受ける。
・眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。

飲み込んだ場合

・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断/手当てを受ける。
・口の中が汚染されている場合は、水で十分に洗うこと。
・気道に入ったと思われるときは、直ちに医師の診断/手当てを受ける。

最も重要な微候及び症状

・現在のところ有用な情報なし。

応急措置をする者の保護

・現在のところ有用な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

・現在のところ有用な情報なし。

5．火災時の措置

消火剤

・粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂が有効である。

使ってはならない消火剤

・棒状水の使用は火災を拡大し、危険な場合がある。

特有の危険有害性

・燃焼の際は、硫化水素、一酸化炭素等の有毒ガス、刺激性のガス/ヒュームを生成するおそれがある。

特有の消火方法

・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
・周囲の設備に散水し、冷却する。

消火を行う者の保護

・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。

・消火作業を行う者は、空気呼吸器等の保護具を着用し、酸素欠乏及び有害ガスから身を守る。

6．漏洩時の措置

・本製品は粒状物であるため、流出することはないが、飛散する場合がある。

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

・作業の際には、保護具を着用する。

環境に対する注意事項

・水分と接触すると固まるため、河川等に排出し、環境へ影響を及ぼさないように注意する。

・排水溝などの閉鎖空間への流出を防ぐ。

回収、中和

・適当な容器及び包装等で回収する。

二次災害の防止策

・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

・周囲の着火源を取り除き、消火用器材を準備する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

・水分と接触すると固まるため、水との接触を避ける。

局所排気・全体換気

・「**8．暴露防止及び保護措置**」を参照。

接触回避

・水との接触を避けること。

・「**10．安定性及び反応性**」を参照。

安全取扱い注意事項

・眼、皮膚への接触を避けるため適切な保護具（保護手袋等）を着用すること。

・接触、吸入または飲み込まないこと。

・眼に入れないこと。

・屋内で取り扱う場合は換気に注意すること。

・取扱い後はよく手を洗うこと。

・製品の袋が破れるような乱暴な取扱いはしないこと。

保管

技術的対策

・水との接触を避けること。

混触禁止物質

・「**7．取扱い及び保管上の注意**」及び「**10．安定性及び反応性**」を参照。

保管条件

・雨水や雪、直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に容器を密閉して保管すること。

・水回りや湿度の高いところに置くと、製品の袋が吸湿し、内容物が固まるおそれがある。

容器包装材料

・製品使用容器に準ずる。

8．暴露防止及び保護措置

設備対策

・発生源の密閉、又は排気装置を設ける。

・取扱場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度

・製品に対する有用な情報なし。

・3 g/m³　（アルカリ性添加材の成分情報）[a)]

許容濃度

・製品に対する有用な情報なし。

・日本産業衛生学会	3 mg/m³（鉱油ミストとして）	（石油系炭化水素の成分情報）[a)]
	1 mg/m³（吸引性粉塵）	（アルカリ性添加材の成分情報）[a)]
	1 mg/m³（吸入性粉塵：鉄として）	（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]
	4 mg/m³（総粉塵：鉄として）	（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]
・ACGIH	5 mg/m³（鉱油ミストとして）	（石油系炭化水素の成分情報）[a)]
	5 mg/m³（赤色酸化鉄として）	（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

保護具

呼吸器の保護具

・状況に応じて、防毒マスク（有機ガス用）等を着用する。

手の保護具

・状況に応じて、耐油性型の保護手袋等を着用する。

眼の保護具

・状況に応じて、保護眼鏡等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

・状況に応じて、耐油性型の長袖作業着等を着用する。

衛生対策

・取扱い後はよく手を洗うこと。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	ベンガラ色の粒状
臭い	特異臭
ｐＨ	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	214～218 ℃（バインダとして）
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	データなし
溶解度	水に不溶、バインダは有機溶剤に可溶
ｎ－オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

１０．安定性及び反応性

安定性

・水分と反応して安定固化する。

危険有害反応性

・強酸化剤との接触を避ける。

避けるべき条件

・高温多湿な場所での保管。水との接触。

混触危険物質

・水（使用前に水分と接触すると固まってしまい、製品として使用不可能となる）

危険有害な分解生成物

・燃焼により煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成する。

１１．有害性情報

急性毒性

・製品に対する有用な情報なし。

・経口　ラット　LD50　5000 mg/kg 以上（赤色酸化鉄として）（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

・経皮　ウサギ　LD50　5000 mg/kg 以上　（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

・吸入　ウサギ　LC50　5.05 mg/l 以上（赤色酸化鉄として）　（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

皮膚腐食性・刺激性

・製品に対する有用な情報なし。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

・職業ばく露において、本物質の蒸気による結膜炎の報告や、眼刺激性が複数報告されている。ことから区分 2 とした（CICAD 59 (2005)、DFGOT vol.17 (2002)）。本物質の蒸気をウサギに複数回ばく露した結果、回復性の結膜炎がみられたが回復性であったとの記載がある。(CICAD 59 (2005)、ACGIH (7th, 2001))。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

・製品に対する有用な情報なし。

・ヒュームや蒸気を吸い込んだ場合は軽度の感作性があるので注意する。
皮膚感作性を示す情報はなし。（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

生殖細胞変異原性

・製品に対する有用な情報なし。

・石油芳香族エキストラクトについて生殖細胞変異原性を示す情報なし。
（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

発がん性

・製品に対する有用な情報なし。

・API では石油芳香族エキストラクトを DAE (Distillate Aromatic Extracts）と RAE (Residual Aromatic Extracts）に分類している。（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

・本物質は RAE に分類され、RAE については発がん性を示す記載はない、また EU (Concawe, ECHA）による評価でも発がん性としての分類は適用される必要はない。
（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

生殖毒性

・製品に対する有用な情報なし。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

・製品に対する有用な情報なし。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

・製品に対する有用な情報なし。

誤えん有害性

・製品に対する有用な情報なし。

１２．環境影響情報

生態毒性

・製品に対する有用な情報なし。

魚毒性

・ゼブラフィッシュ LC50　5000 mg/l 以上（赤色酸化鉄として)(ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

・オオミジンンコ　EL50　100 mg/l 以上（赤色酸化鉄として）(ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

微生物に対する毒性

・活性汚泥　EC50　10,000 mg/l 以上（赤色酸化鉄として）　（ベンガラ色顔料の成分情報）[a)]

残留性・分解性

・製品に対する有用な情報なし・

・本物質の即時的な生物分解性は期待できないが、最終的には生物分解されると期待されている。（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

生体蓄積性

・製品に対する有用な情報なし。

・生物濃縮する可能性を備えた成分を含んでいるが詳しい情報なし。（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

土壌中の移動性

・製品に対する有用な情報なし。

・類似基油の log KOC は 3 以上と推測され、地表で漏出した油は土壌に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。（石油系炭化水素の成分情報）[a)]

１３．廃棄上の注意

・事業者は産業廃棄物（残余廃棄物、汚染容器及び包装）を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

・投棄禁止。

・焼却する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼすおそれの無い方法で行うと共に、見張り役をつけること。

・その他、関係法令の定めるところに従う。

１４．輸送上の注意

国際規制

国連番号	非該当
品名	非該当
国連分類	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当

国内規制

・火気、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上　労働安全衛生法

海上　船舶安全法

航空　航空法

安全対策

・該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

・容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転落、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行なう。

１５．適用法令

労働安全衛生法

・令第 18 条（表示対象物質）及び令第 18 条の 2（通知対象物質）鉱油

・法第 57 条（表示対象物質）及び法第 57 条の 2（通知対象物質）酸化鉄

化学物質排出把握管理促進法

・非該当

１６．その他の情報

参考資料

GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 – ラベル,作業場内の表示及び
安全データシート（SDS）JIS Z 7253 : 2012
製品評価技術基盤機構（NITE）
a）安全データシート（原料メーカー）

記載内容の取扱い

・安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

・すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをおすすめします。なお、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

記載内容の問い合わせ先

・担当部門　シンレキ工業株式会社　中央研究所
・住所　〒210 - 0867　神奈川県川崎市川崎区扇町 6 番 2 号
・電話番号　044 - 366 - 1617
・ＦＡＸ番号　044 - 366 - 1618
・メールアドレス　kenkyu@shinreki.co.jp
・受付日時　月曜日 ～ 金曜日（祝祭日は休業）　8 : 30 ～ 17 : 30